

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： NPO法人大月地域資源活用協議会
上位関連計画にみる地域の将来 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンをネットゼロ達成 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。 ○現在の人口：4490人、将来：3291人（2030年）、2321人（2040年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）） ○地域の総合計画に示された将来目標 現状：●●→目標：●●（●年）、現状：●●→目標：●●（●年） ○地域の環境分野の上位計画の将来目標 現状：●●→目標：●●（●年） 現状：●●→目標：●●（●年）

②具体的な取組 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。 <b>1.町内で山林資源を活用・消費ができています</b> ・町内で山林資源を活用できる仕組みづくり→生産:黒炭・薪・お茶・キノコetc…それぞれ 販売:ぼちぼち山業チーム <b>2.山業の担い手が増えている</b> ・新しい担い手の育成ができる仕組み→森林組合（みどりの雇用）、町内近隣市自伐型林業山師 ・「大月町で山の仕事を」生活がイメージできる→ロールモデル、SNSなどでの発信 <b>3.施業地がある</b> ・山主さんと山の場所情報がまとめられている：ぼちぼち山業チーム
---

①ありたい未来 複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる →林業・山師・炭焼きだけが仕事じゃなくてOK！自分のライフスタイルに合わせた方法で山の仕事に関わる人を増やそう。もちろんがっつりでも！※山業：山の資源を活用して生業にすること。木を伐採する人だけでなく、木や山地を活用する人も含めた生業  森林率78%、林業に従事している人が少ない・増えない、という課題を抱えている本町。豊かな山林資源を活用し、複数のぼちぼち山業で生活をする人たちを増やすことを目標としています。自分のタイミングで取り組むことのできるぼちぼち山業は様々な業種で生計を立てたい移住者のライフスタイルにマッチしています。移住者を巻き込み、雇用を増やすことで新たな移住希望者の選択肢も広がっていきます。例えば担い手のひとりに町内で自伐型林業の研修を受けた方がいます。3年ほど経験し、ちょっとした山の仕事は受けられるようになった、と話していました。「将来は炭焼きながら一緒にピザも焼けないかな」と目標を教えてくださいました。農業や飲食のように自分のやりたいこと+αの仕事に山の仕事を選んでくれたら他の産業もにぎやかになるでしょう。専業で林業を行う人も、ぼちぼちで山業をする人も生活がしやすくなる仕組みがあることで雇用の創出、収入の増加、荒廃林の減少、減災につながります。 <b>ありたい未来から期待している地域の状態</b> 放置人工林・荒廃林の減少、林業以外の産業従事者が増えている、地域経済が活性化されている、町外に支払っているエネルギーを町内の事業者を支払える仕組みができています
---

③短期目標						
分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (22年度末)	実績値 (23年度末)	単位
環境	1.町内で山林資源を活用・消費ができています	森を“場”として活用したい計画がある	1	1	1	件
	〃	町内で山林資源を消費・使える仕組みづくりが検討されている	1	0	1	件
	2.山業の担い手が増えている	循環する森づくりの担い手を探す	0	0	1	人
	3.施業地がある	循環する森づくりを希望する山主さんとつながる	4	0	4	人
経済	1.町内で山林資源を活用・消費ができています	町内他事業者還元する仕組みづくりができています	0	0	0	円
	〃	すきま事業の売上が出ている	5,700	0	5,700	円
	〃					
	〃					
社会	1.町内で山林資源を活用・消費ができています	ぼちぼち山業、すきま事業の数が増えている	1	2	1（準備中3）	事業
	2.山業の担い手が増えている	すきまワーカーの人数が増えている	3	2	3	
	〃	西泊地区などモザイク林のモデル林づくり	0	0	0（ルート付）	
	〃	情報発信（SNS,WEBサイトなどによる周知活動ができています）	2	1	Instagramでの発信、移住	媒体
	〃	山師さんと繋がっている				
	3.施業地がある	山主さんと繋がる	2	2	山主さんと繋	人

④長期目標							
分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (22年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	1.町内で山林資源を活用・消費ができています	森を“場”として活用している・利用されている	0	1	2030	2	か所
	〃	町内で山林資源を消費・使える仕組みづくりができています	0	0	2030	1	件
	2.山業の担い手が増えている	循環する森づくりの担い手育成	0		2030		人
	3.町内の森林がゾーニングされている	施業の提案ができようになっている（森林プランナーが育成されているなど）	1	1	2030	2	人
経済	1.町内で山林資源を活用・消費ができています	取引した山林資源の量に合わせ一部地域通貨で支払い。地域通貨の出回った額	0	0	2030	1,500,000	円
	〃	取引した山林資源の量に合わせ一部地域通貨で支払い。地域通貨が使われた額	0	0	2030	1,500,000	円
	〃	町内で取引された山林資源の量	0	0	2030	500	t
	〃						
社会	1.町内で山林資源を活用・消費ができています	ぼちぼち山業、すきま事業の数が増えている	1	3	2030	5	事業
	2.山業の担い手が増えている	すきまワーカーの人数が増えている	3	5	2030	10	人
	〃						
	〃	新たに山業に取組む人に「大月町で山の仕事を」生活がイメージできる状態になっている	0	0	2030	2	人
	3.施業地がある	山主さん情報と施業地情報がまとめられている	0	0	2030	3	件
	〃	山主さんと山師さんを繋げる仕組みができています	0	0	2030	3	件

⑤短期指標が長期目標にどのように関わることをお書きください ありたい未来である”複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる”に近づくためには、以下3つの状況が整っている必要がある 1.町内で山林資源の活用・消費ができています2.山業の担い手が増えている3.施業地がある 1.町内で山林資源の活用・消費ができています この状況に近づくために、短期的には仕組みづくり、長期的に運用がされている状況が必要。また、取引価格の一部を地域通貨で支払うことで町内で経済がまわっていく仕組みもつくる。 2.山業の担い手がふえている この状況に近づくために、短期的に大月の山業について周知活動とロールモデルによる地道な情報発信が必要。また、町内の山師に声を掛け循環型の山づくりに興味がある人には研修を実施すること、季節で働く山業やすきま時間でできるすきま事業に関わる人が増えていることが必要。長期的には、山主さんと山師さんを繋げられる仕組みができていないこと、林業・山業従事者によって循環型の方法で施業される山が増えていること、希望者に研修が実施できる体制づくりができていないこと、すきま事業の数が増え売上がたっていることが必要。 3.施業地があること この状況に近づくために、短期的には町内山主さんとコミュニケーションが取れる状態になっていること。長期的には山主さんと施業地の情報がまとめられていること、適切な施業方法について山主さん山師さんにアドバイスができる状態になっていることが必要。  ※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください
--